

会報 わかくさの風 No.6

社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

温故知新(進)

↳ステップアップへの視点↳

人はいつも夢・希望を持っていきます。それは「生きる力」になります。さらに自己実現は、時には壁にぶつかり、「二歩前進一歩後退」ということもあります。また、私自身には既に故人になっていますが、自分の師となる人がいます。若い頃はその人と酒を交わしながら、喧々諤々、議論もしました。その先輩は常に社会正義を訴えておりました。

法人も同じです。法人の理念を実現するために、この十年間同じような経験をしてきました。法人を運営するひとりとして、「揺らぎ」「戸惑い」「苦悩」もありました。

職員の努力や利用者の頑張りとは笑顔に支えられてきました。加えて法人が目指すことや理念、さらにはミッションが明確になっていることが大きかったといえます。個人に例えれば、これらは生きる目標であり、自己実現のための

目標ということになります。

法人化して十一年目を迎えますが、障害のある人々の生活保障は今、大きく揺らいでいます。制度設計の問題もあり、「安心」して地域で生活するには、多様な社会資源を創出する必要があります。そのため私たちは引き続き努力します。それは職員一人ひとりが



障害福祉の課題をどこまで『我がこと』として受け止めるかにかかっています。

今後、障害のある人々が「安心できる地域生活の実現」には、グループホーム、作業所や居宅介護事業所の整備、さらには「その人らしく」生活するための余暇・文化活動の場づくりなど、取り組みねばならない多くの課題があります。これらのことに果敢に挑戦する法人を目指したいと思います。

私たちは「働くこと」「暮らすこと」を大切にしてきました。その実践は間違っていないと感じました。また、障害のある人々の生活課題を包括的に継続して支援する実践、地域のネットワークづくりにも努力をしてきました。しかし、福祉実践では、まだまだ不十分なことも多くあります。

「温故知新」を「温故知進」と受け止め、この十年の振り返りをこれからの十年に活かし、前に進んでいきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

社会福祉法人戸田わかくさ会

統括施設長 竹嶋 紘



特集 10年の節目に 活動を振り返る

法人化10年を迎え就労系の事業所（わかくさ、ゆうゆう、かがやき、就労支援センターとみなみ）の特徴的なとりくみについてお伝えします。

これまでのわかくさを振り返って

障害福祉サービス事業所わかくさ

梅雨空の隙間から差す陽光の強

さが、真夏の訪れが近いことを予感させます。昨年夏、コンサート練習や十周年記念行事の準備に拍車がかかっていたのが思い出され

わかくさの歩み

戸田わかくさ会は、昨年、法人化十周年を迎えましたが、「わかくさ」の歴史は更に遡ります。

わかくさは、昭和六十二年四月に戸田市心身障害児・者を守る親の会が「わかくさ生活実習所」を立ち上げたことにより産声をあげました。その時は、利用者三名、職員四名（常勤一名・非常勤三名）によるスタートでした。

その後、時代の要請や地域のニーズに因應するために成長を続け、平成二十五年五月、現在地に建物を新築、移転しました。現在には利用者定員四十五名の生活介護と就労継続支援B型を併せもつ多機能施設、そして、戸田わかくさ会の中核施設として活動しています。

働くところ

この間、わかくさは、「どんなに障害が重くても働けるんだ」という考えのもとに、一貫して働くことに力を注いで来ました。

法人化前から行っている新聞や空き缶作業は、地域の方々のご理解とご協力のお蔭で年々回収量が増えています。空き缶作業は、年間売上五百万円を目標に自動空き缶圧縮機を導入しました。五百万円にはまだまだ及びませんが、機械化したことにより、作業効率は格段に向上しました。そのため、空き缶回収作業も意欲的に行っています。

その他にも

ピンゴモール等にあるボールプールのボール洗浄、おしぼりたたみ、駅前清掃等を行っています。

なかでも駅前清掃は、これか



らの本格的な夏に向け、とても体力を消耗します。障害の重い方々にとっては、見た目以上に厳しい仕事です。でも、「これが自分たちの仕事だ」と皆さん頑張っています。こうして得た工賃だからこそ、嬉しいし、意義があるのだと思います。その労働の対価である工賃を少しでも上げられるよう、利用者、職員共にこれからも努力していこうと思います。

更に前進

また、平成二十四年度から始めた表現活動は、今年度から創作クラブとして定期的に行うようになり、更に今年度は自治会も発足しました。自治会活動では、利用者の方々が、選挙で会長と副会長を選び、「自分たちのことは自分たちで考えていこう」と意欲的に活動を開始しました。

これからもわかくさは、地域に根差した施設として、皆様と共に一歩ずつ成長・発展して行きたいと思えます。今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いたします。

わかくさ

所長 菊地久雄

就労移行支援事業所の取り組み

福祉作業所かがやき

かがやきは同一施設内に「就労移行支援事業所」(就労移行)と「就労継続支援B型事業所」(B型)があります。特に「就労移行」は市内1か所のため、その役割は大きく、期待を寄せられています。B型は主に働くこと(生産活動)に重点をおいて日課が組まれています。B型は主に働くこと(生産活動)に重点をおいて日課が組まれています。B型は主に働くこと(生産活動)に重点をおいて日課が組まれています。

訓練内容

一日の流れは、朝礼、体操、体力づくりのウォーキング等を終えた後、それぞれの個別のプログラムに従って訓練を開始します。訓練内容は、ピッキング、ボールペンやプラグの組み立て、計量、パソコンの文字や数値入力などで、決められた時間内に難易度を上げながら行います。訓練は一日4コマありますが、休憩時間と昼休みを除いて、みっちり行いますので中途半端な気持ちではできません。

移行の利用者

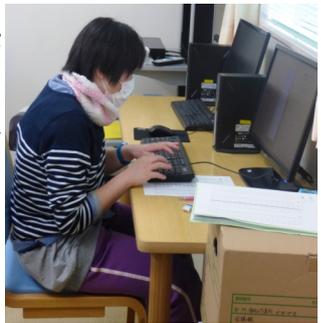
今回は就労移行の利用者にスポットをあてて紹介をします。現在の利用者は7人で、今年度特別支援学校を卒業した6人と就労B型から移った1人です。皆、就職を



プラグ分解・組立



計算



パソコン入力

一週間のうち一日は施設外の作業も行いますが、ほとんどこの訓練に費やされます。また、人によっては、委託訓練、体験的実習、面接の練習等が入ってきます。特に挨拶とほうれん草(報告・連絡・相談)は大事なことなので意識して行ってもらいます。その他訓練に関しては、その人に合わせながら行っています。4月当初、新規利用者は挨拶もできなかったのが、今では徐々に大きな声でしっかりと言えるようになってきました。つい先日、1週間の職場実習を終えたHさん曰く「実習は大変だったけど楽しかった。」と感想を語ってくれました。

就労者の実績は?

平成23年から平成27年度までの間に(24年度は就労移行は0人でした)かがやきの就労移行に在籍したのは全部で10人で就職者は7人、つまり、在籍者の7割の方が就職したことになります。また、就職の取り組みはじめは手探りでしたが、就労支援センターや障害者就業・生活支援センター等の協力もあり就労につなが

る人が増えました。一方、就労移行に限らずB型からも就職者は出ています。かがやきを利用して人の年代を見てもみすと10代から20代が53%、30代から40代が47%と比較的若いこともあり、まだまだ可能性がかなりあります。現在企業の障害者雇用率も以前に比べると若干上がっていますし、就職しやすい傾向にはありますが、そんなにたやすいことではありません。

かがやきは今後とも(就労移行・B型とも)中長期計画にのっとり就労の取り組みをさらに充実させていきたいと考えています。皆さん応援してください。福祉作業所かがやき

所長 鈴木利夫



ピッキング

障害者の就労を考える

戸田市障害者就労支援センター

5月に厚生労働省から『平成26年度の障害者の職業紹介状況等』の発表があり、全国の就労件数は84,602件と25年度に比べて8.6%増え、5年連続で過去最高を更新しています。最近の就職動向として精神障害者が大幅に増加し、身体障害者の件数を大きく上回っていることが記されていました。

登録者数と就労者支援

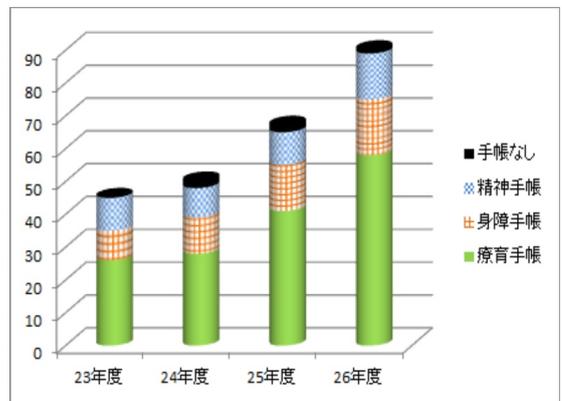
平成20年の開所以降、本年4月

時点では171名の方が登録し、86名が就労しています。障害種別ごとでは知的障害者が85名、精神障害者45名、身体障害者が37名、手帳のない方が4名です。

登録者割合では知的障害のある方が半数を占めていますが、全国の障害者雇用の動向と同様に近年は精神障害者の方が増加傾向にあります。また、昨年度の相談件数を振り返ると相談・支援件数 $2,100$ 件のうち、 $1,088$ 件（55%）が就労後の定着支援となっています。当センターとしても、障害者雇用の動向や雇用施策、センターのマンパワーなど、さまざまな状況に応じた支援を考えていかなければなりません。

就労支援を支える地域づくり

障害者雇用の推進には地域づくりの視点が大切だと思います。センターの就労者86名のうち、33名が戸田市内の企業で働いています。その理由として障害者や病気によ



手帳別 登録者の推移

り環境的な制限を受け、近隣でなければ働くことが困難な方がいます。そうした方を支えるためにも、戸田市を中心とした地域の中での体制づくりが必要です。

情報発信とネットワークづくり

当センターでは広報活動としてこれまでに、開所時のシンポジウム『障害者の就労を考える』や5周年記念シンポジウム『障害のある方の「働く」を考える』を実施してきました。また、広報『とだわーく通信』を発行し、障害者雇用の動向や当事者・就労先企業の紹介記事等を掲載してきました。平成25年度からは就労支援センター



良暇余暇（よかよか）サロン

の利用説明会を開催し、市民や、関係機関など地域に向けて情報発信をしてきました。

他にも25年度より戸田市自立支援協議会で就労推進部会が発足し、市内の福祉事業所や特別支援学校、戸田市商工会、経済産業振興課等のネットワークが生まれました。

法人内連携の強化と就労者増

また、法人内連携としては就労移行支援事業の福祉作業所かがやきとの連携では、今までに14名の就労を支援してきました。更に、23年度より国・県の委託を受け障害者就業・生活支援センターみなみ（対象障圏が戸田市、川口市、



『障害者の就労を考える』シンポジウム

10年目の ゆうゆう物語

福祉作業所ゆうゆう



戸田市より戸田市立福祉作業所ゆうゆう（以下「ゆうゆう」という）の指定管理者となり間もなく10年、『ひと昔』と聞くと感慨深いものがあります。これを機に振り返ってみます。

どら焼きを仕事に

ゆうゆうと言えばどら焼きですが、当初は和菓子職人Wさんからボランティアで教えていただき、家庭用ホットプレートで焼いていました。これを「一緒に仕事としてチャレンジしよう!」「どら焼きを食べて幸せになってもらおう」と当時のN所長と職員、利用者の全員で決めて取り組みましたが、苦戦の連続でした。「作っても売れないと工賃にならないから」と若手職員のSさんは終業後、どら焼きを抱えて駅の客待ちタクシー

の運転手、一人ひとりに声掛けをして販売した、などのエピソードも数知れませんが、やがて、市内のイベント販売などで徐々に知ってもらえるようになり、「ゆうゆうのどら焼き、みんなで作ってます、おいしいですよ」と満面の笑顔をおいし利用者が販売できるように なります。

平成22年、戸田市商工会より「ゆうゆうのどら焼き」が戸田市推奨品に認定されました。市役所内でも県外視察の際の土産や来客のお茶うけとしての利用や地下売店の販売、また、利用者の卒業した学校を中心に販売やお祝い品等にも利用いただいています。最近、浦和パルコの販売やパチンコ店などにも広がり、昨年度の総売上げは約七百万円となりました。

現在は、利用者の実情に応じた作業分担と協力で仕事に挑戦中です。注文を受けた時や作業開始時、商品配達時、販売・接客時など、どの場面でも彼らは「職人」そのもの。格好良くて素敵です。

市民の前で清掃作業

駅前清掃については、室内作業の経験が大半の障害者には難しいのではないかと利用者や家族、職員に少し躊躇がありました。人通りの多い屋外で週5日、午前午後各2時間、寒暖・晴雨問わず一年中作業を継続するため、職員が作業手順や工夫を整えました。作業実績のある戸田環境衛生事業協同組合の皆さんからも丁寧な指導を受け、作業開始時には組合の制服

着用が許可を得て、より責任感が増すことになりました。

少しずつ仕事の幅を広げ、質を高める努力を積み重ねてきました。時には備品の破損や自転車と接触する



などのトラブルもありました。しかし、その対応を通じて彼らが「ひとりの人として」働くことの意味を深めていく大切な機会を与えてくれました。近頃は市民の皆さんから「駅前で掃除をしてくださね」「きれいにしてくれてありがとう」などの言葉をいただけるようになりました。障害者の働く姿を見て、理解者が少しでも増えてもらえれば幸いです。更に他の2駅（他の2事業所が作業）にも清掃作業が広がり、より多くの障害者が市民が行き交う中で清掃業務に従事できたことは本当にありがたいことです。

共同で仕事探し

ゆうゆうが事務局の「とど共同



受注センター「こるぼ」も十年目を迎えます。提案当時は、安価な内職作業に依存するか、自主製品を作ってもなかなか売れない状況が続いていたため、利用者の工賃がひと月働いて千円〜三千円程度でした。そこで、高い工賃を得る仕事、特に官公需（市役所等の公的機関の仕事を受注すること）を得られるように働きかけをすること、大きな仕事を受注する際には市内の事業所の実情に応じて分担して仕事をやりきろう、という組織としました。

ふるさとまつりの「環境うちわ」の製造や「リサイクルフラワーセンター」事業の受注、戸田市福祉保健センター内の「CAFECORBO」の運営などが代表例で、近年全国的に有名な取り組みとして紹介されることが増えました。

工賃は2倍に

この間のとりくみにより、ゆうゆう利用者の工賃は平成十八年は、基準月額八千円、賞与年一回、八万円でしたが、昨年度は平均月額二万五千円、賞与年三回で計十万円と年間支給額では約二倍の増額が実現しました。しかし、全国的

に語られる「工賃五万と年金で一人暮らし」にはまだ届きません。

事業所としては工賃の多寡だけでなく、利用者にとって内容も良く、高工賃を支給し、社会的役割のある仕事を追求していきます。

転入転出と支援内容の変化

法人内事業所の機能分化により福祉作業所かがやきへの「転出」が7名ありました。ゆうゆうでの作業を通じて働く意識が徐々に高まり、「企業就労に向けてがんばりたい」という願いが形になりました。一方、転出もあれば、特別支援学校の卒業生を中心に新規利用開始もあり、定員20名のところ現在25名が利用しています。

ゆうゆうとしては、利用者の変化に伴い、本当に必要な作業か？という観点で常に見直しをしました。たとえば、名刺印刷作業はパソコン入力をしていただけの方は転出したのを見直しを行い、また、市役所の封筒の点字刻印作業は、別事業所の重度障害者の仕事として必要とされたため取りやめました。（いずれも共同受注センターによる経由で別の市内事業所で継続中）また、どら焼きの機械導入・

効率化等は利用者の意欲や作業量向上に伴うものです。

近年は、作業内容以外にも個別対応が望ましいと思われる方の比率が高まっています。一人静かにマイペースで仕事に取り組みたい方、仕事以外の持っている才能を発揮した方が良いと思われる方、まず体を動かすことを大切にしたい方など、その場合は職員の個別対応・支援に切換えてきました。

じまり腰を据えて

ゆうゆうに通う成人期障害者の暮らしは多面的に検討し、じつ々



り取り組まねばなりません。どら焼き作業や駅前清掃等が現在の状態になるまでに長い期間を要し、安定した関係が必要とされました。また、職員の支援以外の周囲の市民や関係者と多様な関わりを加えることで影響を受け、徐々に社会性も獲得されてきました。改めて、十年の重みと利用者一人ひとりの成長を感じます。

しかし、次なる課題として、十年歳を取ったことへの対応です。三十代だった利用者は四十代となり、作業本位の日中活動の見直しが必要となってきましたので法人の長期計画とも連動して検討すべきと考えています。更にその家族は七十代となります。高齢化に伴う家庭機能の変化が予想されますが、関係機関と連携、役割分担する中でどのように本人・家族を支えていくのか、という次の検討課題が迫っています。住み慣れたこの街で、その人なりの豊かな暮らしを一緒にあって、引き続き考えていきたいと思えます。

福祉作業所ゆうゆう

所長 草柳 努

表現と笑顔と喜び

平成24年度から始まった表現活動。あつという間の3年3か月でした。私たち職員はアーティストとしての一面、そして素晴らしい作品に出会うことができました。

県外からも注目

展示会等を通して高い評価を受ける機会も増え、埼玉県障害者アートフェスティバルでは入選者が続出しています。最近では千代田区での「ポコラート全国公募展2015」や滋賀県近江八幡市での「アール・ブリュット☆アート☆日本2」など埼玉県を飛び出して活躍するアーティストも出てきました。展示会に入選するのが目的ではありませんが、この活動に関わる全ての人に、笑顔と喜びが広がっています。

プロジェクトチーム結成

今年度から表現活動を法人全体でじっくり考え、前進させる「プロジェクトチーム」が発足し、



「うまれる・みいだす・つながる」という活動のキャッチフレーズを決めました。

当面、①作品の商品化を通じてお客様や社会と繋がること、②表現活動に必要な画材を自力で生み出していくことが目標ですが、既に埼玉県立近代美術館のミュージアムショップでわかくさのアーノートが好評を得ているなど、少しずつ生産活動へと繋げていく動きが出てきています。この間、外部の皆様からもたくさんのご支援・協力を頂いています。今後、プロジェクトチームを核にして法人全体の表現活動の充実を目指して行きます。今後の動向にもご注目下さい。(清水)

戸田市就労支援センター 利用説明会のお知らせ

就労支援センターの利用方法や支援内容をわかりやすくご説明いたします。説明会終了後、若干の個別相談の時間を設けております。(一人10分程度)

■日時 8月19日(水)

14時～15時

■場所 戸田市福祉保健センター 講習会室2

■対象者 市内在住の障害をお持ちの方およびそのご家族・支援者



■定員 25名

■費用 無料

■申し込み

電話又はファックスにて

就労支援センターまで

TEL 471・9333
FAX 471・9334

■締切期日

8月12日(水)

午後5時まで

(法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ

(ホームページはこちら)

<http://www.wakakusa-kai.com/>

【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会
〒335-0021 戸田市新曽1522-1
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298

(編集後記)

新年度となり、編集委員も代替りとなりました。昨年度の若手中心の紙面構成から今号限定で「ベテラン」による編集となりました。

次号は、パワーアップし、紙面も若返る予定。ご期待ください。(K)

☆非常勤職員

募集中です☆

現在、法人各事業所では非常勤職員を募集中です。詳細は、各事業所、又は法人本部へご連絡下さい。☎432-8198(本部)